

2023年4月19日(水)

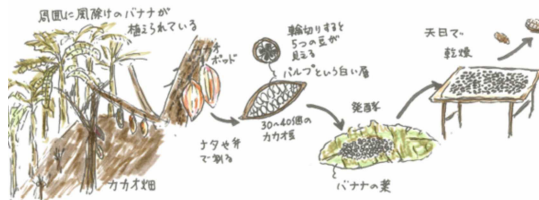
甘いチョコレートができるまでの苦い話

4月12日から2泊3日で、中学1年生と一緒に千葉県の大九里浜、白子町でのオリエンテーション合宿に参加して来ました。初日の夕刻は、例年通り私の特別授業です。「世界から学ぶ私たちの生活」をテーマに、昨年の本校での夏の特別講座『A 知探 Q の夏』での授業のエッセンスからなちよっぴり苦い話を取り上げました。

まずは、名を伏せた状態でラグビーボール大の樹脂・ポリスチレン製の模型の実と、本物の乾燥した実(装飾用)を見て、手で触って、何の実か、また中身はどうなっているか想像し、描いてみることから始めました。



次に、カカオ農場の様子と製造工程の一部(収穫→豆の取り出し→発酵→



→これから先、消費国の工場へ輸出されるので、生産国の人にはチョコレートのことをあまり知らない

乾燥)を写真で見てその状況を描き、また、ある統計資料を用いて日本と西アフリカ諸国との比較で気づいた点を取り上げて考察しました。今日、学校教育に限らず、報道やCMなどでもSDGsという言葉が多く取り上げられていますが、今回は甘くて美味しいチョコレートを例に、「なぜ私達は安い値段でチョコレートを購入することができるのか？」そこに潜む課題と問題点について考えてみました。生産国である西アフリカなどでは、なぜチョコレートは製造されないのでしょうか？今回は、生産国における同年代の子供たちの厳しい労働状況について考え、その問題点と課題を解消する方法について学びました。

中学校において、普段の授業ではもちろん基礎的な知識や技能は大切なことですが、一つ上をめざすために本校では教科書を使った学習にを越えた課題に学びに挑んでいます。それぞれの教員が「面白くなくては学びじゃない」「楽しく学ぶ」ことをモットーに、教

材や課題を工夫しています。それを集大成した特別授業が、「A 知探 Q の夏」で、毎年、数多くのユニークな授業が繰り広げられています。

授業後には、児童労働に頼らないチョコレート菓子の製造に取り組んでいる有楽製菓(東京都小平市)の『ブラックサンダー』を皆に配り、学習の意義についてじっくりと味わってもらうことにしました(実際は自宅への土産としてお持ち帰りに)。最後に、授業の内容を、二つの文で 90 字にまとめるという課題で終わりとなりました。

ref.

●ブラックサンダー製造・有楽製菓 カカオ作る人も笑顔に「児童労働に頼らない」,「東京新聞」2023年4月3日付

●特定非営利団体 ACE(世界の子どもを児童労働から守る NGO)の活動および教材 <https://acejapan.org/childlabour/materials/workshop-chocolate2>

校長 石飛 一吉